

日本に戦争をさせない

「集団的自衛権行使容認」に反対し
「秘密保護法」の廃止を求める

集会宣言

7月1日、安倍内閣は、集団的自衛権行使容認を含む「切れ目のない安全保障法制の整備」を閣議決定しました。この秋の臨時国会以降、関連法案の改正・制定を次々と進めてくるでしょう。改正・制定が進めば、日本が同盟国とともに「自衛」の名のもとに、他国を攻撃することになってしまいます。日本政府がしなければならないことは、軍事的な安全保障法整備ではなく、他国と積極的に対話し、理解を深め、紛争を回避する努力です。それこそが憲法9条が求める日本のあるべき姿です。

一方、秘密保護法については、運用基準案等に関するパブリックコメントで、多くの問題点が指摘され、その数は2万3千を超えました。それなのに、きちんと検討されることもないまま、間もなく閣議決定されようとしています。いくら「知る権利の尊重」が盛り込まれたとしても、デモをテロだといい、ヘイトスピーチと並べて規制しようとするような政権では、市民の声は届かず、市民の権利は奪われてしまいます。このまま秘密保護法が施行されれば、政権に不都合な情報は統制されてしまいます。市民は監視され、自由な言論は封じられ、戦争に反対する声さえも抑え込まれてしまいます。

私たちは、ウソを重ね、憲法を無視して、戦争政策を押し進める横暴なこの安倍政権を、絶対に許すことはできません。

若者たちを戦場に送りたくはありません。二度と侵略戦争を起こしてはなりません。日本を戦争する国にしないために、今日集会に参加した一人ひとりが、一人でも多くの人に声をかけていきましょう。集団的自衛権の行使容認を許さず、秘密保護法を廃止させるために、一層大きな声をあげ、運動を広げていきましょう。

2014年9月23日

「戦争をさせないために～集団的自衛権と秘密保護法に反対する大集会」

参加者一同